

SOCIAL

「Go To商店街」でまちを元気に 吹田市ではイベントや「LINE」でクーポン配布

新型コロナウイルス感染症拡大で被害を受けた商店街などを支援する「Go To 商店街」が始まった。Go To 商店街とは、商店街がイベントなどを開催することで地元を元気に取り戻してもらおうと、国が一定の支援をするもの。イベント開催や商材の開発、プロモーションの制作などが対象で、基本的には300万円を上限に※、3密対策など感染拡大防止対策を徹底することが必須条件だ。(※条件によって変動あり)

— 吹田市

吹田市では、JR吹田駅周辺の飲食店など計47店舗が参加する食べ歩きイベント「第9回吹田バル」(主催=吹田バル実行委員会)、雑貨やアクセサリのクラフト作家が出品する手作りマルシェ「第20回ビレッジマート吹田」(主催=じゃない吹田)、「GO TO 吹田市旭通商店街」(主催=吹田市旭通商店街協同組合)がGo To商店街事業に採択された。

「吹田バル」は例年9月中旬に行われているが、今年はコロナの影響で11月に延期となった。吹田バル実行委員会委員長・じゃない吹田代表の生田謙一郎さんは、「こんな時期だからこそ中止ではなく

延期開催を目指して粛々と準備していた」と話す。その結果、昨年より10店舗ほど参加店舗が増え、ほぼ例年通りの内容で実施となった。

「ビレッジマート吹田」は、毎月1回の開催を予定していたが、コロナの影響で今年の2月から中止に。7月に一度、開催したものの再び中止となり、9月から再開した。

今回は、補助金を利用して初めて両イベントの折り込み広告を実施。他には感染症対策などに充てた。

生田さんは「Go To Eatキャンペーンで少し上向いてきているが、客足はまだ通常の6~7割。忘年会で店を利用してもらえたら」と話す。

「GO TO吹田市旭通商店街」では、無料通信アプリ「LINE」を使ったキャンペーンを行う。これを機にスマートフォンを使用する若い世代を取り込み、今後につなげるねらいだ。

キャンペーンは、今年11月~翌年2月までの期間中、1月を除く毎月第1日曜日11時~14時の間、先着100人に商店街に設置されたブースで公式LINEアカウントを友達登録すると、一部を除く同商店街の店舗や、組合員が運営する「さくらカフェ」で使える500円分のクーポンを配布するというもの。



12月に販売予定の「チキンカレーボール」



「GO TO吹田市旭通商店街」で「LINEのお友達登録ブース」に並ぶ人たち

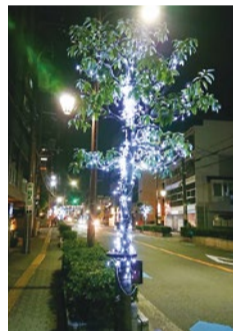
さくらカフェでは、組合と商店街の店が共同開発したチキンカレーボール(500円)やクロワッサンアイスクリームサンド(300円)などを発売する予定。同組合副理事長の池内かおりさんは「これをきっかけに、安心・安全な食材を使った安くておいしい飲食店がたくさんあることを知ってもらえたら」と話している。

— 茨木市

北摂で最初に採択が決まった茨木市の中条まちづくり商店会は「第14回灯りのプロムナード事業」を提案。JR茨木駅東口から市役所へと向かうメインストリート「東西通り」約300メートルを、イルミネーションが華やかに彩る。市からコロナ対策支援の援護もあり、支援金300万円ほぼ全額をLEDの購入費や工事費などに充

てた。今年はLED約4.5万球を使い、例年の4倍近くの規模で実施するほか、市の民話などを書いたプレートをつるすなどして通行人を楽しませる。同商店会のイルミネーションは11月25日から来年1月24日まで。

北摂ではこのほか「おかまち・さくらづかテイクアウト・デリバリーフェア」(豊中市・岡町商店街振興組合ほか)が採択されている。(11月10日時点。全国では169件が採択)

中条まちづくり商店会の
昨年のイルミネーション。
今年は約4倍の規模で
開催する。

SOCIAL

地震追って90年 —高槻・京大阿武山観測所— 下

1930年設立の京都大学防災研究所附属地震予知研究センターの阿武山観測所(高槻市奈佐原)は、知られざる展望の名所だ。大阪平野を眼下にし、淡路島や関西空港も望める。2kmほど南に名神高速が走るのが見えるが、その付近にはよく知られた活断層「有馬-高槻断層帯」があり、重要な観測対象となっている。

活断層が地震の原因になることは、「六甲-淡路島断層帯」が起きた阪神・淡路大震災(1995年)で広く認識されることとなった。「有馬-高槻」は神戸市の有馬温泉の西から池田市、箕面市などを経て高槻市北部に至る約55km。これがあるから阿武山に観測所ができたと思う方がいるかもしれないが、所長の飯尾能久(よしひ

さ)・防災研教授=地震学=によると、設立当時は活断層という概念自体なく、「有馬-高槻」の存在も全く知られていなかったようだ。

「有馬-高槻」は1596年の慶長伏見地震の際に活動した。この時、豊臣秀吉の伏見城が倒壊、史実とは認められないが、歌舞伎や落語には加藤清正が秀吉をおんぶして脱出させる話がある。活動間隔は1千~2千年に一度程度と考えられ、阪神・淡路や2018年の大阪北部地震でも動いていないという。ただ飯尾所長は「断層近くは地震波が大きくなり、被害を受けやすい。それに『六甲-淡路島』は慶長地震でも動いており、『有馬-高槻』が活動しない保証はない」と話す。

マグニチュード6.1の大阪北部地震は高槻市付近が震源だった。ブロック塀が倒れ、女児が亡くなるなどした被害は記憶に新しい。政府の地震本部は周辺にある「有馬-高槻」「生駒断層帯」「上町断層帯」は直接の関係はないと推定し、未知の二つの小さな断層が別の方向にずれたとみている。

飯尾所長は「そもそも近畿は活断層が多く、内陸地震が起きやすい」と警告する。さらに南海トラフ巨大地震の心配もある。地震本部によると、30年以内に発生する確率は70~80%だ。「北摂の方は大阪北部地震で怖い思いをされただろうが、もっと大きな地震がいつ起きても限らない。家具を固定するなどできる備えを確実にやっておいてほしい」



(上)空から見た阿武山観測所。変化のある建物配置となっている=高槻市奈佐原、同観測所提供(右)観測所地下の展示室にあるガリチン地震計。世界で始めて揺れを電気信号に変換して記録し、より小さな揺れも観測できた。阿武山では1938年から使われた



〈コロナ禍で休止していた阿武山観測所の見学会が11月から再開されました。詳しくはホームページ(https://abuyama.com/NEW/open_tour.php)で。参加無料。〉

CULTURE

メシアターがリニューアルオープン 上質な環境で公演が楽しめるように

耐震性の向上をめざして、昨年4月から改装工事が行われていた吹田市文化会館メシアターが9月1日にリニューアルオープンした。地震への備えを目的に、タイルの全面打診検査やホール天井の改修を実施。快適性、利便性においても、客席やトイレ(温水洗浄便座化)を一新し、館内の案内サインもリニューアル。また、大・中ホールの一部に手すりを設置し、大

ホールのホワイエにはエレベーターを設置するなど、バリアフリーにも対応した快適な空間に生まれ変わった。



天井の改修、音響反射板の更新により、ホールの全ての座席に均質のサウンドを提供。

SOCIAL

摂津市など北摂でも アマゾンでライブの生鮮商品が購入可能に

大手通販サイトのアマゾンとスーパーマーケットのライブが、生鮮食品や惣菜を注文、自宅に届けるサービスを東京と大阪の一部で行っている。11月12日から、大阪府大阪市の5区と、摂津市・吹田市・豊中市が新たに配送エリアに加わった。関西ではこれまでの大阪市16区のエリアと合わせて、合計21区3市となった。

サービスはアマゾンの有料サービス「アマ

ゾンプライム」の会員が利用でき、新たに追加された大阪市5区と3市は、アマゾンのウェブサイトやショッピングアプリから購入が可能。最短2時間で受け取れるという。

最低注文金額は2,000円、配送料は6,000円未満で440円、6,000円以上1万円未満で220円、1万円以上の購入で無料となる。アマゾンプライムは月額500円、または年間4,900円。